

■ カリキュラム・ポリシー

■ 看護学科

1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための基礎力を涵養するべく、実社会と結びつき、かつ学科の分野にとらわれない共通の内容を基本とした、教養教育分野を配置する。

加えて看護学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。

2. 専門職として必要とされる看護実践能力およびコミュニケーション能力を育成し、地域社会と生活に根ざした看護活動能力を獲得することを目指し、高い資質と能力を育むことを志向した教育課程を編成する。

3. 専門教育分野として、看護実践上の科学的根拠となる科目を配置した専門支持科目、基礎看護学および領域別看護学を配置した専門展開科目、専門統合科目の3つの科目群を置き、すべて必修科目とした。

4. 実践の科学である看護学であるから、講義、演習、実習の授業展開を効果的に組み合わせ、「学生の主体的な学びの促進」「クリティカルシンキングと問題解決力の育成」を重点的に授業科目として配置した。さらに学生の体験学修を重要視し理論と技術を統合する科目として臨地実習科目を配置し、看護の実践性を培う看護基礎教育の根幹として3年間を通し、段階的に展開する。

■ ビジネスキャリア学科

1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための基礎力を涵養するべく、実社会と結びつき、かつ学科の分野にとらわれない共通の内容を基本とした、教養教育分野を配置する。

加えてビジネスキャリア学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。

2. 基礎分野では、言語スキル系、ベーシック・スキル系、ベーシック・ビジネス系から編成し、ビジネス社会に必要とされる基本的な知識と技能の修得を目指す教育を行う。言語スキル系ではビジネス社会の基本的素養の一つである外国語の幅広い教育環境を提供し、ベーシック・スキル系では社会一般で必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る科目群、ベーシック・ビジネス系では経営学を中心とした現代ビジネスの理解に不可欠な科目群を配置する。

3. 専門教育分野では、本学科の大きな特色である4つの推奨履修モデルに属する展開科目を配置し、高度な専門性と実践性を養う。すなわち、事務職全般を目指すことのできる「オフィスワークモデル」、企業の経理部門や金融部門を就職先の対象とする「経営・会計モデル」、医療機関に特化した事務能力を磨く「医療事務モデル」、小売店の企画・販売業等の業務に活かすことのできるプレゼンテーション能力やマーケティング手法などを学ぶ「販売サービスモデル」という4つのモデル群を構成する専門科目を配置する。

4. 演習分野では、1年生の前期から2年生の後期まで、毎学期、教員が学生を身近で指導できる少人数のゼミ科目を配置するほか、キャリア形成支援に関わる科目を配置する。

5. 地域社会に貢献できるビジネス実務能力を身につけられる科目を配置する。

■リハビリテーション学科

1. 幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性やコミュニケーション能力を養う科目群として教養教育分野、リハビリテーション専門職に必要な知識と技術の修得及び倫理観の構築のための科目群として専門教育分野を置く。

2. リハビリテーション専門職に求められている能力の基礎的な裏付けとして重要な、ヒューマンコミュニケーション能力及び医療従事者としての倫理観を育成するため、人間の総合力としての充実した教養教育を展開する。

3. リハビリテーションを行う上で必要とされる実践能力の基礎となる専門的知識や理論、各領域にかかわる技術を修得し、様々な事象に対して検証を加えることができ、また日々進歩する医学・医療技術に対応し続ける能力の育成を目指した教育を展開する。

4. 保健・医療・福祉の専門職チームの一員として、互いの専門性に対する理解と信頼を深め、連携・協働する能力の育成を目指した教育を展開する。

5. 地域社会と生活に根ざしたリハビリテーション能力の養成を目指し、地域社会の持つ文化や風土、個々人の生活習慣の特性と、地域の中でのリハビリテーションの使命と役割について理解させる科目を設置する。

■こども学科

1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための基礎力を涵養するべく、実社会と結びつき、かつ学科の分野にとらわれない共通の内容を基本とした、教養教育分野を配置する。
加えてこども学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。
2. 考える力、感じる力、想像する力、判断する力、表現する力を高める科目を設置する。
3. 教育・保育の全体的な構造の把握と、こども理解の深化を促し、実践的指導力の育成を目指した教育を展開する。
4. 身につけた知識と技能を活用し、課題の解決に結びつけられる実践力の修得を目指し、実習関連科目を体系的に配置する。
5. 幼児教育を学ぶにあたって必要とされる基礎力の養成と、実践的な能力及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目的として、個々の学生の資質能力を見極め、その力を伸ばすための基礎演習を設置する。

■歯科衛生学科

1. 現代社会が求めるコミュニケーション能力と論理的思考力の基礎を養い、かつ、人として豊かに生きていくための土台を成すことを目指した科目群として教養教育分野を配置する。
2. 歯科衛生学の専門領域科目に係る科目群として専門教育分野を配置する。専門教育分野には、実践能力の基礎となる専門的知識や理論及び歯科衛生を取り巻く保健・医療・福祉について講義を中心に学ぶ専門支持科目群と、講義・演習・実習の体系的な配置により専門支持科目で学んだ理論を技術と統合していく専門展開科目群を置く。
3. 専門展開科目群の中には、理論と技術を実践につなげることを目的として臨地実習科目を配置し、3年間を通して段階的に展開する。

■栄養学科

1. 社会人として必要な豊かな人間性やコミュニケーション能力を養う教養教育分野を配置し、幅広い教養教育を展開する。加えて栄養学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。
2. 栄養学科で学ぶ知識・技術の修得を目指し、自ら調べ、考え、まとめ、発表する能力を育成するため、テーマを設けてグループ学修を行う栄養基礎演習及び栄養総合演習を配置する。
3. 栄養士となるため栄養学の幅広い専門的知識と理論を修得するための専門科目として、専門支持科目、専門基礎科目、専門展開科目を配置し、順を追って体系的に学ぶ。
4. 栄養学の理論と知識を基礎に、実践能力・技術を身につけるため実験・実習科目を充実させる。
5. 栄養士に必要な給食業務を実際に経験する科目として校外実習を配置する。

■観光ビジネス学科

1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための適応力を涵養するため、実社会と結びつき、かつ学科の専門分野にとらわれない共通の内容を基本とする教養教育分野を配置する。
さらに教養教育分野には観光ビジネス学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。
2. 基礎科目、基幹科目、展開科目からなる専門教育分野を編成する。基礎科目では観光ビジネス学を学ぶ際に基礎をなす科目群を必修科目として配置する。基幹科目ではビジネス実務能力、ホスピタリティマインドを涵養する科目群を必修科目として配置する。展開科目では基礎科目及び基幹科目を受けて、4つの履修モデル（「ホテル・ブライダルモデル」、「旅行・テーマパークモデル」、「エアライン・交通モデル」及び「英語コミュニケーションモデル」）を中心として発展的に観光ビジネス分野について学修を深める科目群を置く。
履修モデルにかかわらず、共通して学ぶべき科目群は必修科目として配置し、各モデルに属する科目群は選択科目として配置する。
3. 演習分野では、1年生の前期から2年生の後期まで、毎学期、教員が学生を身近で指導できる少人数のゼミ科目を配置するほか、実践的なキャリア形成支援に関わる科目を配置する。

■現代英語学科

1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための基礎力を涵養すべく、実社会と結びつき、かつ学科の分野にとらわれない全学共通の内容を基本とした、『教養教育分野』を配置する。加えて、現代英語学科の専門教育につながる教養教育科目も配置する。
2. 『専門教育分野』は、『専門基礎科目』、『専門展開科目』及び『関連科目』にて構成する。『専門基礎科目』では、「話す」「聞く」「読む」「書く」の英語4技能を中心に、基礎となる科目を配置する。『専門展開科目』は、『専門基礎科目』で学んだことを基盤とし、4技能を統合した実用的英語運用能力を身につける科目を配置する。さらに、ビジネス実務能力を養成する科目を『関連科目』として配置する。
3. 『演習分野』は、1年次前期から2年次後期まで、教員が学生に身近で指導し、個々の学生の資質能力を高める、少人数のゼミ科目のほか、キャリア形成支援に関わる科目を配置する。加えて、卒業要件単位数に含まない自由科目として、リスニング、リーディング、文法、語彙に関するスキルを強化し、総合的に英語力を向上させる科目を置く。